

〈 小 学 校 道 徳 部 会 〉

研究主題

「道徳的価値の内面的な自覚を促す個に応じた指導の充実」

－展開後段における自分自身を振り返る学習を通して－

研究の概要

生活体験を振り返る展開後段において期待する児童像を明らかにし、指導と評価の一体化を図る。そして、期待する児童の姿が見られなかった場合の効果的な指導法を工夫することによって内面的な自覚を促す。

I 研究の目的

平成 15 年度の研究開発委員会では、道徳の時間で期待する児童像を明らかにし、指導過程の各段階におけるねらいを達成するための手立てを基にして、具体的な評価の観点を工夫した。さらに、期待される児童の姿が見られなかった場合の手立てをとり、1 時間の授業の中での指導と評価の一体化を目指す指導法を導いた。

昨年度は、主として資料に基づく学習活動における指導と評価の一体化を図る研究開発を行った。その結果、道徳的価値の自覚をより確かなものにするためには、児童が自らねらいとする道徳的価値にかかわる生活体験を振り返る学習を充実させる必要があるとの課題が残された。

そこで、一人一人の児童がねらいとする道徳的価値と自分自身のかかわりを自覚し、よりよく生きようとする意欲を高めることができるようにするための研究開発を進めた。

II 研究の方法

1 研究の基本的な考え方と視点

- (1) 前年度までの研究における「指導と評価の一体化」の考え方を基に研究開発を進め、展開後段での充実を図る。
- (2) 期待する児童像を児童の具体的な姿に基づきながら、検討し確かなものにしていく。
- (3) 道徳の時間の特質に基づく授業を基本として指導過程や指導法を工夫していく。

2 研究構想

平成 16 年度研究主題

↑

研究の順序

- ①道徳の時間の特質である「道徳的価値を深めること」を具体的な学習活動として明確にする。
- ②資料を用いる意義と自分自身を振り返る意義を、基礎研究において明らかにする。
- ③展開後段での、期待する児童像を明確にし、展開前段をも含めた有効な指導法を探る。
- ④授業において検証し、展開後段での指導と評価の一体化をさらに明確にする。

Ⅲ 研究の内容

1 道徳の時間で児童自らが自分自身を振り返る意義について（道徳的価値の自覚を深める）

道徳の時間の特質は、児童一人一人が、ねらいとする道徳的価値とのかかわりにおいて自分自身を見つめ、ねらいとする道徳的価値を発達段階に即して内面的に自覚し、主体的に道徳的実践力を身に付けていくことである。

本部会では、特に、児童が「道徳的価値の自覚を深める」ことが道徳の時間の核心であるとの前提で研究開発を進めた。

〈道徳的価値の自覚を深めるための学習活動〉

1 道徳的価値について理解する。

道徳的価値が人間らしさを表すものであるため、同時に人間理解や他者理解を深めていくようにする。

道徳的価値にかかわる多様な感じ方、考え方を知る。

2 自分とのかかわりで道徳的価値がとらえられる。

道徳的価値を自分とのかかわりでとらえ、考える。

3 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培い人間としての生き方についての自覚を深める。

現在の自分を自覚し、道徳的価値にかかわる課題に気付く。

道徳的価値の自覚を深める学習活動は上記の3点であり、これらの学習活動が行われない道徳の時間は、道徳の時間の特質を生かした授業とは言えない。

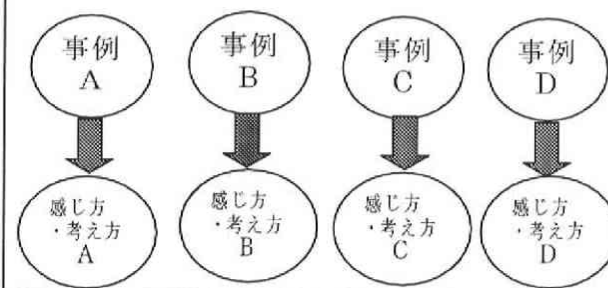
特に、道徳的価値にかかわる多様な感じ方、考え方を知る学習の多様性は、学級の児童一人一人の考え方、感じ方の違いを意味する。一人一人の児童の生育歴、生活体験などが異なることから、道徳的価値にかかわる感じ方、考え方は同一ではない。つまり、道徳的価値にかかわる多様な感じ方、考え方を知る学習には、児童一人一人が自分の生活体験を振り返りながら、学習を進めることが必要になる。

2 道徳の時間で資料を活用することについて

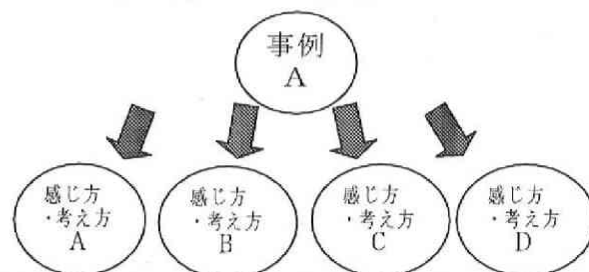
道徳の時間においては、読み物資料などを通して、ねらいとする道徳的価値について自覚を深める学習（上記の3項目）が行われる。集団思考を特徴とする授業においては、児童が共通の問題に向き合い、主体的な学習を進める中で、ともに感じ方、考え方を交流し合うことが重要になる。各教科の学習では、結論が次第に一つに集約される場合が多いのに対し、道徳の時間は多様性と自分の感じ方、考え方の自覚あるいは確認が重要となる。【図1】のようにねらい

特定場面・状況における問題（共通の問題）による話し合いがより、多様性を引き出す。

【図1】複数の場面を取り上げた場合は、場面に応じた多様な感じ方・考え方が出てくる。



【図2】特定場面、状況での話し合いで多様な感じ方・考え方について学ぶことが道徳の時間の特質の一つである。

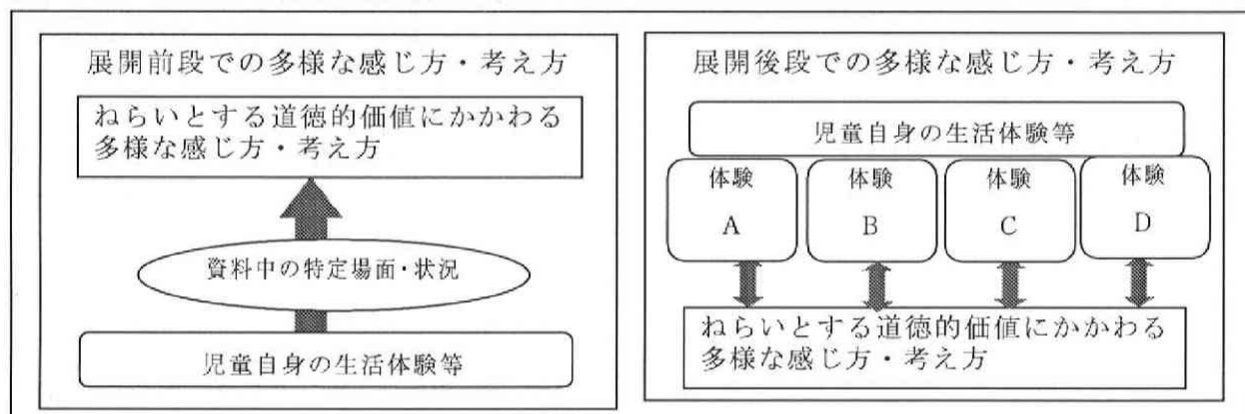


とする道徳的価値にかかわる複数の問題場面を提示すれば、そのことにかかわる感じ方、考え方は事例により異なる。道徳の時間は、【図2】のように同一の事例でも多様な感じ方、考え方があることを学習することが「道徳的価値について理解する」ことにつながるものととらえた。

また、自分の体験にかかわる感じ方、考え方の交流を深めるためには、直接的に自分の体験にかかわることを語るよりも、資料中の登場人物に託して自分の感じ方、考え方を語るの方が、自由な雰囲気の中で話し合いを展開する上で有効である。つまり、道徳の時間にねらいとする道徳的価値にかかわる特定場面、状況を含む資料を活用することは、「道徳的価値について理解する」上で効果的な手立てと言える。

3 「現在の自分を自覚し、道徳的価値にかかわる課題に気付く」学習を促すことについて

資料を通した学習でも適切な発問により、児童は自分自身を振り返る学習を行っているが、道徳的価値の自覚を深めるためには、道徳的価値にかかわる課題を培い人間としての生き方についての自覚を深める学習を確かに行う必要がある。そのためには、ねらいとする道徳的価値を視点に、現在の自分を自覚し、道徳的価値にかかわる課題に気付くような学習を行うことが重要になる。現在、多くの授業で行われている資料を離れて自分自身を振り返る学習（展開後段）は、このような意味で意義深い。



4 期待する児童の姿と主な指導方法

資料の構成にもよるが、一般的には以下のような指導方法が考えられる。

段階	期待する児童の姿	主な指導方法	道徳的価値の自覚 (②特に重要と考えたもの)		
			①道徳的価値の理解	②自分とのかかわり	③生き方の自覚
展開前段	① 登場人物の気持ちなどを自分の体験を基に考える	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体験に基づいて考えられる発問の工夫 児童の反応の分類・整理 小グループでの話し合い 座席配置の工夫 対象、場面の広がりをもたせるワークシートの活用 例話等の提示（ヒントカードの活用） 体験に伴う感じ方・考え方の問いかけ 体験や感じ方・考え方の交流の工夫 展開前段の板書を生かした自分自身の振り返り 	◎	◎	○
	② 友達の発言などからいろいろな感じ方、考え方に気付く		◎	◎	○
展開後段	③ ねらいとする道徳的価値にかかわる行動などを場面、対象を広げて考える。		○	◎	◎
	④ ねらいとする道徳的価値にかかわる自分のよさや不十分さに気付く。		○	◎	◎
	⑤ ねらいとする道徳的価値にかかわる体験の際の気持ちや考えを振り返る。		○	◎	◎

IV 指導事例

〈第5学年「家族愛」の指導〉

- 1 主題名 「家族であることのよさ」 内容項目 4－(5)
- 2 資料名 「たまご焼き」(文部省 道徳の指導資料とその利用)
- 3 ねらい 家族のよさを改めて知り、家族の一員として進んで役に立とうとする心情を育てる。
- 4 指導と評価の一体化

	児童に期待する学習	その学習を成立させるための指導法
展開前段	<p>①登場人物の気持ちを自分の体験を基に考える。</p> <p>・主人公の由紀の気持ちを、自分と家族とのかかわりを基に考える。</p> <p>②友達の発言から、様々な感じ方や考え方に気付く。</p> <p>・家族から叱責されたとき、家族の愛情を感じたときの由紀の気持ちを考えながら、家族とのかかわりについての多様な感じ方、考え方に気付く。</p>	<p>・場面絵を用いて、由紀に対するイメージを高めさせる。①</p> <p>・由紀の気持ちや置かれた状況を考えさせることにより、由紀の心情の変化を身近なものとする。②</p> <p>・グループでの話し合いを取り入れ、互いの考え方を交流させる。③</p> <p style="text-align: right;">【指導法1】</p>
展開後段	<p>④ねらいとする価値にかかわる自分のよさや不十分さに気付く。</p> <p>⑤友達の発言から、様々な感じ方や考え方に気付く。</p> <p>⑥ねらいとする価値にかかわる体験について、自分がどんな気持ちや考えで行動したのかを振り返る。</p>	<p>・自己の経験を明確に振り返らせるために、ワークシートに記入させる。また、行為だけでなく、そのときの気持ちも記入させる。②</p> <p>・一部、少人数での話し合いも取り入れながら、互いの体験を交流させる。①</p> <p>・ワークシートに記入したことを、発表させ様々な体験を交流させる。①</p> <p>・ワークシートに記入したことをそれぞれ黙読させる。③</p> <p style="text-align: right;">【指導法2】</p>

5 展開

指導の意図	学習活動・主な発問と期待する児童の反応
○ねらいとする価値への方向付けをする。	<p>1 「家族」という言葉から連想をする。</p> <p>「家族」という言葉から、思いつくことはどんなことか。</p> <p>・父母、兄弟姉妹、祖父母 ・自分の世話をしてくれる人 ・大切な物</p>
○由紀の気持ちを通して、家族の一員であることのよさや家族のために進んで役に立とうとするこの価値について考えさせる。	<p>2 資料を読み、由紀の気持ちに自分の体験にかかわる気持ちを重ね合わせて考える。また、友達の感じ方や考え方に気付く。</p> <p>父にほおをたたかれた後、由紀は、どんなことを思ったか。</p> <p>・どうしても持っていきたくない。 ・どうしてこんな事でたたかれてしまうの。</p> <p>・言い過ぎたかも知れないけど、あきらめられない。</p> <p>たまご焼きの味が口いっぱい広がった時、由紀はどんな気持ちだったか。</p> <p>・どうやって、手に入れたのだろう。 ・家族っていいな。</p> <p>・母ちゃん、ありがとう。何とも言えない、いい味だ。 ・昨日は、少し言い過ぎてしまった。</p> <p>由紀は、どんな気持ちから、ふろたきをしようと思ったのか。</p> <p>・たまごのお返しをしなくては。 ・父ちゃん疲れているだろうな。</p> <p>・家族のために役に立つことをしたい。</p>
○家族のためにしていることを振り返らせる。	<p>3 自分の経験を想起し、ねらいとする価値にかかわる自分のよさやその時の気持ちに気付いたり、友達の発言から、様々な体験があることに気付く。</p> <p>家族のために役に立つことをしたことがあるか。それは、どんなことか。また、どんな気持ちで取り組んだか。</p>
○身近な人の話を聞く。	<p>4 教師の話聞く。</p>

6 考察

(1) 展開後段について

ワークシート記入前に2名を指名し発言させることにより、具体的に何を想起して記入すべきかを全体に提示することができた。また、記入後の発言を基に役立つことに対して「自分から」取り組んでいたのか、「言われて」取り組んでいたのかという今までの自分の姿を振り返ることができた。さらに友達の体験と比較し、自分なりの感想を持つことができた。

○資料概要：たまご焼き

家ではたまごを切らしてしまっているのに、由紀は、どうしても遠足へ大好きなたまご焼きをもっていきたいと何度も訴え、父と母に叱られる。翌日、遠足に行き、弁当箱を開けてみるとそこにたまご焼きを見つける。そして、家に帰って、父が夜に遠くまでたまごを取りに行ってきたことを知り、父のために由紀は、進んでふるたきをしようとする。

指導により期待する児童の具体的な姿（評価の観点）	
<ul style="list-style-type: none"> ・時にはわがままを言って、叱られてしまう由紀の姿を通して、家族であることの気安さを理解している。[1] ・わがままにこたえて夜遅くに遠くまでたまごを取ってきてくれた父や、それを見守る母の由紀に対する思いを通して、子どもに対する両親の愛情に気付く。[2] ・家族のためにできることをしようとする由紀の気持ちから、家族の中での自分の役割に気付く。[1] ・由紀の気持ちについて、友達同士で素直に考えを述べたり聞き入れたりしている。[1] 	【評価の観点1】
<ul style="list-style-type: none"> ・家族のために役立つことをしていた経験を振り返っている。[1] ・どんな気持ちで自分が役立つことをしていたかを振り返り、その意義について考えている。[2] ・友達の体験を知り、自分なりの感想を抱いている。[3] ・友達の体験と対比しながら、ワークシートを読むことによって自分の経験を再び振り返っている。[3] 	【評価の観点2】

指導上の留意点と指導法、評価の観点	期待する姿が見られなかった場合の指導
<ul style="list-style-type: none"> ・家族について考えていくことを示す。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・理解を深めるために登場人物やあらすじを簡単に知らせ、補足説明をする。 ・叱られた後の由紀の様子を確認させる。 ・由紀が寝た後の父母の気持ちも考えさせる。 ・玉子焼きを食べた後の由紀の様子を確認させる。 ・グループで話し合い、多様な考え方に気付かせる。 <p>【指導法1】 【評価の観点1】</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">わがままを言って、家の人に強く叱られたことやたたかれたことはあるか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験と重ね合わせて考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">叱られた後の涙とどう違うか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">ふるたきをしてもらった父は、どう思ったか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・対象である父親の気持ちを併せて考えさせる。
<ul style="list-style-type: none"> ・数名に発言させ、どのようなことを考えればよいかを知らせる。その上で、想起させてワークシートに記入させる。 ・友達の意見と比較して自分なりの感想を抱かせる。 ・記入したワークシートを黙読させる。 <p>【指導法2】 【評価の観点2】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入することのできない児童に対しては、近くの児童と相談させ、「家での手伝い」をキーワードに想起を促す。

(2) 指導と評価の一体化

期待する姿が見られなかった場合の指導を取り入れることにより、ワークシート記入の滞っていた数名の児童へも記入を促すことができた。期待する児童の具体的な姿を明らかにしたことにより、自分自身の体験やそのときの気持ちについての振り返りが、より確かなものとなった。

〈 第3学年「思慮・反省」の指導 〉

- 1 主題名 「よく考えて行動し、過ちは素直に改める」 内容項目 1-(2)
- 2 資料名 「まどガラスと魚」(文部省 道徳の指導資料)
- 3 ねらい よく考えて行動し、過ちは素直に改めようとする心情を育てる。
4. 指導と評価の一体化

児童に期待する学習	
展開前段階	<p>①登場人物の気持ちを自分の体験を基に考える。</p> <p>千一郎の置かれている立場を考えることで自分にも似たような体験があったことを思い出す。また、千一郎の気持ちに共感しながら、自分のそのときの気持ちを掘り起こす。②</p> <p>②友達の発言などから様々な感じ方、考え方に気付く。</p> <p>葛藤している千一郎の心の中を出させることで、さまざまな考え方、感じ方に気付かせる。①</p>
展開後段階	<p>④ねらいとする価値にかかわる行動・考えなどを様々な場面や条件下において考える。</p> <p>場所を広げる(学校で、家庭で、習い事で、公園で等) 対象を広げる(友達に、家族に、近所の人に、先生に等) ②</p> <p>⑤ねらいとする価値にかかわる自分のよさや不十分さに気付く。</p> <p>過った行動をしてしまった経験と、それを改めた経験を思い出すことで、自分の不十分さやよさに気付く。③</p>

5 展開

指導の意図	学習活動・主な発問と期待する児童の反応
○ねらいとする価値の方向付けをする。	<p>1 自分の行動を反省した経験を思い起こす。</p> <p>自分がやってしまったことは良くなかった、と気付いたことはありますか。</p>
○千一郎の葛藤する心に自分の気持ちを重ね合わせて考えさせる。自分の行動を振り返り、過ちに気付いたら改めることの価値について考えさせる。	<p>2 資料を読み、千一郎の気持ちに自分の気持ちを重ね合わせて考える。</p> <p>みんなで話し合う中で、いろいろな感じ方、考え方に気付く。</p> <p>ガラスを割ってしまったとき千一郎はどう思ったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しまった。 ・おこられる。 ・早く逃げよう。 ・謝らなくては。 <p>何度もその場に行くがはり紙ににらまれそのまま帰ってくる千一郎はどんな気持ちか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怒られるから、黙っていよう。 ・謝りたい。でも言えば怒られる。どうしよう。 ・もっと早く謝ればよかった。 <p>山田さんの行動を見て、自分も謝ろうと決心するまでの千一郎の気持ちを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お姉さんのように素直に言えば、許してくれるのではないか。 ・お姉さんは猫のやったことなのに謝りにきた。自分は自身のやったことなのに逃げてしまっただけ反省している。 <p>きちんと謝ることができたとき、千一郎の心の中はどんなだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すっきりした。 ・心が軽くなった。
○ねらいとする価値に対する体験を思い出し、自分自身を振り返らせる。	<p>3 ねらいとする価値にかかわる自分の体験を思い出し、これまでとってきた自分の行動と、そのとき思ったことを明らかにする。</p> <p>自分がやったり言ったりしたことはいけなかったと気づき、やらなくなったり、よりよく直したりしたことはあるか。そのときどんなことを思っただけ直したのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝、あわてて学校の用意をしたら、二つも忘れ物をしてしまい困った。前の日に用意をすればよかったと思い、するようになった。 ・友達にひどいことを言ってしまった。そのあと自分もいやな気持ちになって謝った。
○身近な人の話を聞く。	4 教師の体験談を聞く。

6 考察

- (1) ねらいとする価値の自覚を深めさせるために、児童のどのような気づきや発言を取り上げていくか、計画しておかなければならなかった。そこがあいまいだったため、友達のよさに気付いたり、自分の理解を深めたりすることに物足りなさが残った。

資料概要「まどガラスと魚」

千一郎は他人の家の窓ガラスを割ってしまうがそのまま逃げ出す。しかし、そのことが気になって、翌日もその次の日もその家まで様子を見に行ってみるが、やはり正直に言えない。その日の夕方、千一郎の家では夕飯の魚を猫に取られてしまうが飼い主のお姉さんが謝りに来る。それを見た千一郎は、次の日、自分もガラスを割った家に謝りにいく。

その学習を成立させるための指導法	指導により期待する児童の具体的な姿（評価の観点）
<ul style="list-style-type: none"> 場面絵を用い千一郎のおかれている状況を考えやすくする。 千一郎の揺れる気持ちを考えて話し合う。気持ちの変化を整理して板書しねらいとする価値について考えさせる。 話し合いでは座席をサークル状にすることで、相手意識をもって友達の発言を聞けるようにする。 【指導法1】 	<ul style="list-style-type: none"> 千一郎の心の葛藤に自分の気持ちを重ねて考えている。 自分のとった行動を反省し、改めることが大切だと悟った千一郎の気持ちに自分の気持ちを重ねて考えている。 友達の考え方と自分のそれとを比べながら聞いている。 【評価の観点1】
<ul style="list-style-type: none"> 自分のとった行動について反省した経験を思い出し、ワークシートに書くことで自分を振り返らせる。 友達同士、ワークシートを読み合うことで、さまざまな経験があることに気づく。 【指導法2】 	<ul style="list-style-type: none"> 場面や対象を広げ自分の体験を思い出して書いている。 過った自分の行動と、その時の気持ちを思い出すことができている。 【評価の観点2】

指導上の留意点と指導法・評価の観点	期待する児童の姿が見られなかった場合の指導
<ul style="list-style-type: none"> ねらいとする価値にかかわる体験を思い出し、千一郎に気持ちを重ねやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> 思い出せた児童に自分の体験を言わせる。
<ul style="list-style-type: none"> とっさに目先のことだけを考えて、過った行動を取ってしまったことに気付かせる。 過ちをそのままにしておこうとする気持ちと、きちんと謝ろうとする気持ちの間でゆれる心の中を考えさせる。 山田さんの言動を見て、はじめは謝るかどうか迷っていた気持ちから、「逃げたのはいけなかった、謝ろう。」と決心するまでの千一郎の気持ちを考えさせる。 謝ることができたときの、心のすがすがしさに気付かせたい。 【指導法1】 【評価の観点1】 	<ul style="list-style-type: none"> はり紙を見てあわてて逃げ帰ったことに着目させる。 遠回りなのに、雨や風の日であってもその場に行っていることに着目させる。 <p>山田さんはどんな気持ちで一軒一軒まわったのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のペットのことで、きちんと責任をとろうとする山田さんの生き方に触れさせる。 <p>黙っているか、謝るかで悩み、重たくなっていた千一郎の心はどうなったか。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 場面や対象を広げて体験を見つけられるように、前段の展開を生かした板書やワークシートの工夫をする。 過った行動をしてしまったことに気づき、それを改めた経験を思い出すことで、自分の不十分さやよさに気付かせるようにする。 友達同士でワークシートを読み合ったり質問し合ったりすることで友達の人間らしさやよさに気付く。 【指導法2】 【評価の観点2】 	<ul style="list-style-type: none"> どうしても思いつかない児童には、学校生活の中で教師が日々把握していることを個別に示す。

(2) 展開後段について

展開前段の思考の流れと板書を生かした後段の発問、ワークシートの工夫を行った。その結果、児童たちは振り返りがしやすくなった。しかし、過った行動を改めた時の気持ちを振り返らせたとき、自分の行動に責任を持とうとした山田さんの生き方にふれたときの思いにもっと着目させられると、ねらいとする価値に対する自分の思いや課題が深まったものと思われる。

〈第5学年「寛容・謙虚」の指導〉

- 1 主題名 「広い心で相手のことを考えて」 内容項目 2- (4)
- 2 資料名 「銀のろうそく立て」(出典 学習研究社「みんなのどうとく 5年」)
- 3 ねらい 謙虚な心を持ち、広い心で相手の立場や気持ちを考えようとする心情を育てる。
- 4 指導と評価の一体化

児童に期待する学習	
展開前段	<p>①登場人物の気持ちを自分の体験にかかわる気持ちと重ね合わせて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物に自分の思いを重ね合わせるにより、自分を見つめながら主体的に道徳的価値を自覚していくことができる。 [2] <p>②友達の発言から、様々な感じ方や考え方に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の発言によって、ねらいとする道徳的価値にかかわる多様な感じ方・考え方に会い、自分の感じ方・考え方を自覚することができる。 [1]
展開後段	<p>④ねらいとする価値にかかわる行動などを場面、対象を広げて考える。</p> <p>⑥ねらいとする価値にかかわる体験について、自分がどんな気持ちや考えで行動したのかを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手のことを考えて広い心で接することができた体験を振り返り、自分自身を見つめさせ実践意欲へとつなげる。 [3]

5 展開

指導の意図	学習活動・主な発問と期待する児童の反応
○学習への興味・関心を高める。	<p>1 「銀のろうそく立て」と資料中の登場人物のイメージをもつ。</p> <p>「銀のろうそく立て」とはどんなものを想像するか。</p>
○過ちをおかしたジャン・バルジャンとそれを許す司教の広い心を自分自身と重ね合わせながら、広い心をもって相手を受け入れることについて考えさせる。	<p>2 資料を読み、司教とジャン・バルジャンの気持ちに自分の体験を重ね合わせながら考える。</p> <p>19年も刑務所に入れられていたジャン・バルジャンを司教はどんな気持ちで食事やベッドを用意して迎えたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 19年間も刑務所に入っていて大変だっただろう。 ・ つらい経験をたくさんしてきたに違いない。ここでゆっくり休んでほしい。 <p>ジャン・バルジャンが銀の食器を盗んだとマグロアールから聞かされた司教の心はどうだっただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あんなに親切にしたのに、なぜ盗んだのだろう。信じられない。 ・ 19年間も刑務所に入れられていたような人だから、また罪を犯してしまったのだ。 ・ 銀の食器は貧しい人のためにこそあったのだ。自分ももつべき物ではなかった。 <p>司教はどんな思いからジャン・バルジャンに2本のろうそく立てまでも手渡したのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ このかわいそうな人を何とか助けてあげたい。 ・ 同じ過ちを繰り返さないで、よい人間になってほしい。 ・ このろうそく立てを役立てて、幸せになってほしい。 <p>ろうそく立てを司教から手渡されたとき、ジャン・バルジャンはどんな気持ちだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の罪を許してもらえるなんて信じられない。 ・ 何と心の広い人なのだろう。 ・ もう二度と同じ過ちを繰り返さないようにしよう。
○広い心で相手のことを考えることを視点に自分自身を振り返らせる。	<p>3 ねらいとする価値にかかわる体験を想起し、自分がどんな気持ちや考えで行動したのかを振り返る。</p> <p>今までの生活で、相手の立場や気持ちを考えて許してあげたり、受け入れたりしたことはあるか。それはどんな気持ちからか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 貸した物が壊れて返ってきたけど許した。あやまったので責めたらかわいそうだった。 ・ 遊びを決めたとき、自分の意見を聞いてもらえず怒ったけれど、譲った。友達の気持ちがわかったから。
○広い心についての意識の持続化を図る。	<p>4 教師の話を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童作文を読み聞かせる。

6 考察

(1) 展開後段について

展開前段で資料中の登場人物に気持ちを重ね合わせて考えた児童の反応を分類・整理し、展開後段につなげ場面や状況を広げて自分自身を振り返ることができるようにした。発問後に、数人の児童に事例を発表させ、その後一人一人に考えさせたことが児童の振り返りを促すことにつながった。ねらいとする道徳的価値に対する行動に対して、どのような気持ちで行ったのかを深く考えさせる投げかけを教師が意識的に行うことで、さらに児童一人一人が自分自身を見つめることができた。

○資料概要：銀のろうそく立て

パンを一つ盗もうとして19年間刑務所に入れられ、出所したばかりのジャン・バルジャン。ミリエル司教は温かく迎え入れ一晩泊めることになる。高価な銀の食器に心を奪われたジャンはそれを盗み逃げる。ジャンは警察に捕まり司教のもとに連れてこられるが、司教はジャンをかばい、罪を無条件で許す。

その学習を成立させるための指導法	指導により期待する児童の具体的な姿（評価の観点）
<ul style="list-style-type: none"> 場面絵を用いて登場人物の気持ちを考えやすくする。 ミリエル司教のジャン・バルジャンに対するもてなしや行為の表れが、どのような内面から出ているのかを考え、話し合わせる。 ねらいとする道徳的価値についての考えを深めていけるよう、話し合いを整理し、板書を工夫する。 座席をコの字型にして、話し合いを行いやすい雰囲気を作る。 <p style="text-align: right;">【指導法1】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ミリエル司教の心の内面を自分の体験と重ね合わせて話している。 友達の考えや気持ちを、自分の考えや気持ちと比べながら聞いている。 <p style="text-align: right;">【評価の観点1】</p>
<ul style="list-style-type: none"> 体験とそのときの気持ちや考えを、ワークシートに書くことで振り返らせる。 書いたことを発表し合い、互いの体験を聞き合うことで場面・対象を広げて道徳的価値について考えさせる。 <p style="text-align: right;">【指導法2】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校だけでなく、家庭、地域社会の場面でも体験を振り返っている。また、そのときどのような気持ちで行動したのかを振り返っている。

指導上の留意点と指導法、評価の観点	期待する姿が見られなかった場合の指導
<ul style="list-style-type: none"> 資料への興味・関心を高めさせる。 銀でできたろうそく立ての写真を提示する。 ミリエル司教とジャン・バルジャンについて簡単に触れる。 	
<ul style="list-style-type: none"> 9年間も刑務所に入れられていたジャン・バルジャンの苦境を理解した上で迎え入れる司教の内面を通して、異なる立場の人とのかかわりを考えられるようにする。 銀の食器が盗まれたことを知ったときの司教の心の中を考えさせる。話し合う中で人に裏切られたときの様々な感じ方・考え方に気付かせるようにする。 司教の心の広さはどんな気持ちから出ているのかを考えさせるようにする。 ジャン・バルジャンが許してもらったときの気持ちを考えさせることで、広い心の意義について気付かせる。 <p style="text-align: right;">【指導法1】 【評価の観点1】</p>	<p>ジャン・バルジャンは、今までどんな生活を送ってきたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ジャン・バルジャンの投獄生活を考えさせるようにする。 <p>盗まれたことを知った司教は「あれは貧しい人たちのものだった」と言ったが、そう言うまでにどんなことを考えただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 司教の迷いを考えさせ、多様な感じ方、考え方を引き出すようにする。 <p>司教は「正直な人間になるために」と言っているが、ほかにはどんなことを思ったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の思いを広げるようにする。 <p>ジャン・バルジャンは震える手で銀のろうそく立てを握りしめていたが、どんな思いが手を振えさせたのだろうか。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに自分が相手の立場を考えて広い心で接することができた体験を書かせることで、自分自身を振り返ることができるようにする。 学校だけでなく、家庭、地域社会に場面や対象を広げて体験を想起できるようにする。 <p style="text-align: right;">【指導法2】 【評価の観点2】</p>	<ul style="list-style-type: none"> 体験を思い起こすことができた児童の内容を例示することで、友達の反応に引きずられることのないように配慮しつつ、友達の体験から自分の体験を想起させやすくする。

(2) 指導と評価の一体化

期待する児童の具体的な姿を明確にしたことで、期待する児童の姿が見られなかった場合の手だてを講じることができた。展開後段に入るときの児童の反応の様子から、特定の場面や状況に引きずられている児童も見られた。そこで、振り返りの視点を明確にするために、ねらいとする道徳的価値にかかわる体験を数名の児童に発表させた。その結果、それを聞いた他の児童のねらいとする道徳的価値に対する考えが深まり、場面、対象を広げて考えることができるようになった。また、振り返りの視点がねらいとする道徳的価値から離れがちな児童に対しては、机間指導で個別に助言し、教師が事前に把握した相手の受け止めなどを伝えたことも有効であった。

V 研究のまとめ

1 道徳的価値の内面化を図るための展開後段の工夫

展開後段に期待する児童像は、多様な感じ方の中から、現在の自分を自覚し、道徳的価値に係わる課題に気付く児童にほかならない。このことを効果的に行うため、前段の児童の反応をまとめ、整理し、思考の流れを板書することでより確かな振り返りにつながった。また、ワークシートに書かせたことを意図的にサンプリングすることや、場面絵を用い登場人物の心情をよりわかりやすくする等の工夫も、振り返りに有効であることが分かった。

展開後段は展開前段の学習を受けて、道徳的価値のより深い内面的自覚を図る段階である。後段の充実を図るために展開前段、展開後段それぞれで期待する児童の学習する姿を明確にした。そして、その姿が授業中に見られるように、展開前段の学習の板書を活用する（ねらいとする道徳的価値にかかわる多様な感じ方、考え方を短い言葉にまとめ、前段の学習の板書の上にはる。）、補助的な指導として、例話やヒントカード等の用意、ワークシートの工夫を行うなどの指導が有効であることが分かった。

2 教師の道徳的価値についての理解の深化

道徳的価値の自覚を深めるためには、道徳的価値の理解や、自分とのかかわりで道徳的価値をとらえること、及びそれに係わる思いや願いを児童がもつことが必要とされる。その前提としては、教師自身がねらいとする道徳的価値を深く理解する必要がある。

実証授業でも取り上げた「謙虚・寛容」であるが、この価値を一つとっても「親切思いやり」、「公正公平」などの道徳的価値が深く関連している。このとき、指導する側がそれぞれの道徳的価値の違いをはっきりさせなければ、明確なねらいに基づく的確な指導が不可能になり、従って指導と評価の一体化も困難になる。

3 道徳の時間における資料活用の意義

道徳的価値はそのままでは抽象的であるため、具体的行為となって表れている資料を用いることで、児童は道徳的価値を理解し、自分のこととして考えを述べることできた。また、児童は資料を通して主人公の気持ちなどを考えながら、自分の体験を想起し自分の感じ方・考え方の振り返りを始める。児童同士の利害関係などにより正直な気持ちを表せない場合も出てくるため、資料という共通の場面、状況で、登場人物に託して、様々な考えを出し合い、深め合うことが有効であると言える。

4 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや願いをもたせるために

ねらいとする価値を教師側が明確にすることで、さらに展開後段のめざす児童像が明確になる。そして、期待する児童の姿が見られなかった場合の指導についてもしっかりと押さえることにつながった。

今後は、自分なりに発展させていくことへの思いや願いをどのような観点で評価するのかを明らかにする必要がある。